

同好會報

●十二月例會 大正九年十二月十八日午後三時から、豫報の如く京都大學物理學教室へ、例會を開いた。講演は

「天文ミ層」

山本助教

年末ではあつたが二十名ばかりの會員が集まられた。丁度此の頃は京都市内の天文學講習會開期中であつたので、例會は日没までに閉ちて、山本古川兩氏は六時までに講習會場に急いだ。

●最近會員數

會員諸氏の御援助により我が會の新入會者は毎日ごし／＼と増加しつゝあるのは、頗る喜ぶべきことである。本年

一月八日現在で會員總數は五百五十五名に達した。毎日平均四名づゝの増加である。此の分ならば今年中には一千名を越ゆる大團體になるだろう。事務も近來頗る多忙になつて來た。専門の事務家を招きたいと思つてゐる。又年内には雜誌の頁數も増したいと望んでゐる。これに關して會員諸君の御意見も伺ひたい。

●岡山へ第二回宣傳旅行

本一月十五日から岡山縣教育會主催で、岡山物産館に「時の展覽會が」開かれ、京都大學からも

子午儀の圖及模型

時計としての北斗七星(圖)

季節と太陽の運動(圖)

太陽系の圖

宇宙距離模型

二十八宿の圖

等を出品した。又同時に同縣教育會から招かれて、新城山本兩氏は一月十五、十六兩日岡山市に出張、先づ十五日午後七時、岡山縣會議事堂で講演會、

「時について」

京都大學教授理學博士

新城新藏氏

「太陽系の未知星」

同

助教授理學士

山本一清氏

因に、此の日午後六時半から同所で同好會岡山支部發會式を行ひ、水野支部幹事と山本本部幹事の挨拶があつた。その他種々の用事のため山本(本部)幹事は同日正午岡山に來着し諸般の打合せに忙しかつた。

翌十六日は正午一時から支部の講演會が縣立商業學校で開かれ

「星座の語」

理學士

山本一清氏

「天球について」

支部幹事

水野千里氏

の講話があつた。

右の諸會合中、例によつて水野支部幹事の献身的の働きは實に偉大なるものであつた。今や岡山地方は同氏の活動によつて同好會員總數八十一名を算し、尙續々増しつゝある。岡山は天文學上から考へても、本邦中最も晴天の多い氣候の溫和な、天文觀測には恰好の土地である。此所に天文熱心家が多く出來、遂には將來此の地に天文臺が建設せられるまでに發展したいものである。

●同志社支部講演

海老幹事の幹旋により本年一月十二日同志社理科學館にて同支部第三回講演が左の如く開かれた。

「金星の接近」

山本理學士